

# Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)

2011/10/01 第10号

## Topics

- ・第2回食の新潟国際賞候補者推薦受付中
- ・フードメッセinにいがたが開催されます
- ・「第1回食の新潟国際賞21世紀希望賞」を受賞して
- ・食の新潟国際賞第2回推薦要項(抜粋)
- ・第1回ゼロ・ハンガー・ネットワークアジア地区会議に参加して
- ・食の新潟応援団会員名簿

## 第2回食の新潟国際賞 候補者推薦受付中!

9月1日より、第2回食の新潟国際賞の候補者推薦の受付が始まりました。

本賞、佐野藤三郎特別賞、21世紀希望賞の3部門で募集しています。応募の締め切りは11月末日(必着)です。皆様からの推薦をお待ちしております。

また、今号では第1回食の新潟国際賞21世紀希望賞を受賞された東京家政大学の藤森文啓先生から寄稿いただきました。ぜひご覧ください。

## フードメッセ in にいがたが 開催されます

**FOOD MESSÉ**  
in NIIGATA 2011  
フードメッセ in にいがた



新潟をはじめローカルには地域独自の美味しいもの、優れた食材が数多くあります。しかし、それらが大規模見本市などに出席する機会は少なく、全国的には知られざる逸品となっています。

魅力ある差別化を実現する各地の隠れた食材・食品、そして最新の技術が、フードメッセに結集します。

### 【開催概要】

開催日時: 2011年11月17日(木)~19日(土)  
10:00~17:00(19日は16:00)

11月17日(木)・18日(金) ビジネスデイ

11月19日(土) ビジネスデイ/一般公開デイ

会場: 朱鷺メッセ ウェーブマーケット(新潟コンベンションセンター)

主催: 食と花の世界フォーラム組織委員会 新潟市  
特別協力: 日本食糧新聞社

出展者数: 167社・団体/169小間(9月22日現在)

会場構成: ◆出展ゾーン

地域食材・一般食品・業務用食品、調理機器・調理器具・容器、産学研究、輸入食品・食材、特別コーナー「非常食・災害食」、食の復興・県産品応援、その他

◆バイヤーデスク(予約制個別商談会)

◆セミナー



Niigata Award

発行: 一般財団法人  
食の新潟国際賞財団  
〒951-8131 新潟市中央区白山浦  
1丁目425-9 新潟市白山浦庁舎内  
URL: <http://www.niigata-award.jp>  
E-mail: [info@niigata-award.jp](mailto:info@niigata-award.jp)  
(季刊・年4回発行)

## 「第1回食の新潟国際賞・21世紀希望賞」を受賞して



東京家政大学家政学部環境教育学科  
生物工学研究室 准教授 藤森文啓

食糧を生産する基幹的な産業を確保するにはどのようなシステムが必要であろうか？自動車や家電品・電子機器は、独自の技術を持つ種々の会社の部品や知識という下支えによって最終製品となり世に送り出される基幹産業の代表品目である。では、バイオ技術が支える基幹産業は何か？製薬会社などが扱う医薬品などはバイオ技術を集結して開発されるいい例ではあるが、基幹産業と言うには自動車産業などに比べれば小さい存在であろう。農業は総合的な市場としては非常に大きい産業ではあるが、基幹産業を形成する会社組織として存在していない。マクロ的な視点で地球全体のこれからの考えた場合に、世界の人口を支える食糧生産に関わる産業こそがバイオ技術で支えるべき対象であるが、ここにも基幹産業としての実態はまだ存在しない。「食の新潟国際賞」が食糧生産の明るい未来を目指す研究を評価し、その研究が食に関わる基幹産業を作り出す原動

力となることであれば将来の食糧問題の解決に光が見える。では、食産業の基幹産業としてのイメージとはどのようなものか？その一つの答えは植物工場などのような、人工環境による食の大規模生産であろう。古代、人口が少ない時代にあつては自然環境に左右されながらも生産される数少ない作物によって胃袋を満たすことが可能であつたが、これからの時代にあつては自然任せの生産だけでは全人口を支えることは量的に不可能である。科学技術を駆使して組み換え食品を推進しようという話ではなく、食の安定生産に向けたビックバンが必要な時代となっていることを考えると、前述のような食品生産をリードする新たな産業形體が必要なのもかもしれない。バイオテクノロジーという分子レベルの世界で研究展開をしていると、生物が持つ機能の追及や新技術開発などの研究に没頭しがちで、ヒトの生命活動の根幹である「食」の重要性を見過ごしてしまう。今一度バイオテクノロジーの社会的貢献を考えると上記のような「基幹産業」を生み出すような研究貢献をしなければと思うのである。また、私たち研究チームが頂いた賞のテーマは副菜であるキノコであつたが、主食となる穀類の研究への応用ができるような結果を出すことも使命であると感じている。「食の新潟

国際賞」は真剣に世界の食の今後に貢献する研究者らへ発信された素晴らしい賞である。この地球上の生命活動を維持しつつ、環境に配慮し、十分な食糧供給を確保する新技術の創世などに与えられるこの「食の新潟国際賞」は、世界の研究者のモチベーション向上に繋がるもので、真にこれからの世界を見据えた賞である。

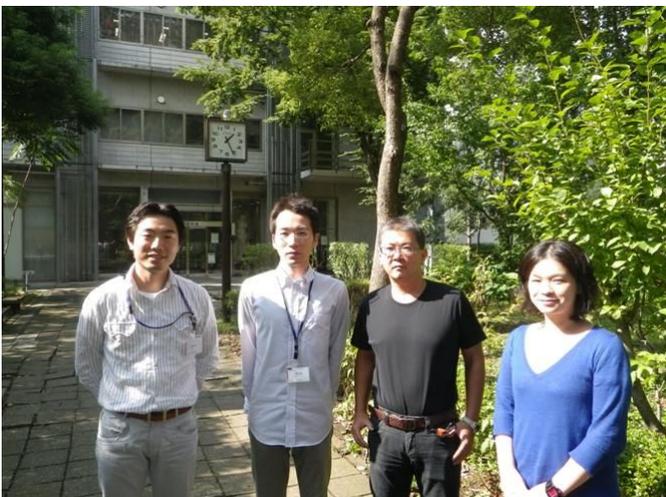
さて、遺伝子情報の活用というと一般的に浸透した話としては遺伝子診断、オーダーメイド医療、個人特定など多岐に渡る。しかし農業の面での活用となると、品種判別、品種改良などの用途に限られており、生産体制のシステムに組み込むような利用方法はほとんどない。すなわち、大規模工場生産などの中での生産システム(これが基幹産業へと成長することを望むのであるが)で起こる不良品の排除、適切な生産管理のモニタリング等に遺伝子情報を利用できるシステム構築が将来の食糧確保に必要な技術であると考えて



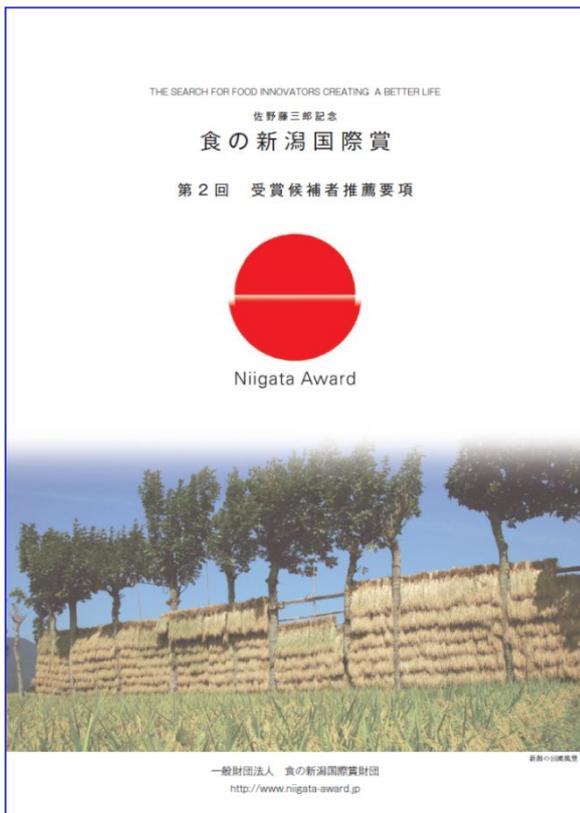
天然マイタケ(東京都内)

いる。キノコの工場生産においては遺伝子発現情報を駆使して、前述のコンセプトを達成することが可能であるところまで来た。しかし、主菜である穀類や肉類生産における生産システムに遺伝子情報を組み込むことが達成されて初めて食糧生産の量的確保を安定的にできるのではないかとと思われるため、そこに向けた研究開発に私たちの研究結果を反映させることができれば幸いである。

アスリートやエンターティナーなどに与えられる賞は数知れない。一方で、研究成果に与えられる国際的な賞は数少ない。もっと言うと、食に関する国際的な賞はほとんどないにも関わらず、食に関わる研究を行っている研究者は相当数いる。この「食の新潟国際賞」は食の研究のノーベル賞としての存在感を世界にアピールし研究者たちの目標となる賞へと発展していくことを望んで、さらに研究に没頭したいと思う。



# 食の新潟国際賞第2回受賞候補者推薦要項(一部抜粋)



“THE SEARCH FOR FOOD-INNOVATORS CREATING A BETTER LIFE.”  
(世界を救う食のイノベーターに光を)

食の新潟国際賞は、上述の趣旨で9月1日から11月30日の期間、日本及び世界のノミネーターに候補者の推薦をお願いし、「本賞」(賞状、記念工芸品、副賞1,000万円)を原則1件、「佐野藤三郎特別賞」(賞状、記念工芸品、副賞200万円)を原則1件、「21世紀希望賞」(賞状、記念工芸品、副賞100万円)を原則2件選定します。選定は選考委員会(委員長/唐木英明氏・日本学術会議副会長)が行い理事会が決定します。2年に1回顕彰する事とし、第2回表彰式典及び記念講演など関連行事を2012年11月23日(祝)、24日(土)、25日(日)に開催を予定しています。

食の新潟国際賞の基本テーマは「食と生命」です。

食の確保が困難な為に、あるいは確保したが食が栄養価や安全性の面で問題を抱えている事のために、生命や健康が脅かされる人々が地球上に多数存在しています。その現実に向き合い、人々の生命を救い、暮らしを向上させ、尊厳の回復に大きく寄与した食の分野の業績(個人・グループ・団体)を顕彰します。

## 選考原則

1. 地域的、個別的取り組みであっても、世界にとって普遍性を内包している業績である事。
2. 本賞は学術的価値そのものを賞讃する学術賞ではなく、なされた新たな発見や技術の開発が、人々の暮らしの向上に寄与したその範囲とレベルをも勘案して評価します。
3. 長期・持続型の取り組みであり、包括的・統合的な視野をもつ業績であること。

## 対象分野

食の課題は、

- ①生産と供給 ②食と健康 ③食と教育
- 以上の3つの分野に存在しています。この3分野は繋がっており、包括的にとらえることが必要です。以上の視点を前提とし、各賞の対象を示します。

## 各賞について

### 1. 本賞

以下に対象として考えられる主なものを例示します。この例示以外のものについても広く対象とします。

- (1) 利用技術〈食品, 食料の保存・加工技術など〉
- (2) 生産技術〈育種・栽培技術、土地改良、砂漠化防止、灌漑技術、治水など〉
- (3) 流通システム〈安定供給システムの開発、貿易ルールの改善など〉
- (4) 食品の安全性〈食品中の健康被害要因の立証と除去など〉
- (5) 発展途上国の食の向上〈栄養、安全な生活水、給食など〉
- (6) 食品機能による健康増進〈食品の健康機能、病気予防の疫学調査など〉
- (7) 食・農教育〈学校、地域、産業界の教育モデルと実践、国民の自立精神の醸成、技術移転とフォローアップなど〉
- (8) 国際協力〈特にNGOによる諸活動〉
- (9) その他〈グローバルな食の安定供給・確保に関する政治的、経済的、社会的、教育的、イニシアチブと実践など〉

### 2. 佐野藤三郎特別賞

- (1) 特に発展途上国の食糧増産・安定供給の為に生産・栽培技術の開発や生産基盤の確立に寄与している業績。
- (2) 世界各国・地域で持続可能な農業を核とする自立的な地域モデルの構築に寄与している実績。
- (3) (1)(2)の内容で、高度な国際協力の達成に寄与している業績。

#### #佐野藤三郎特別賞に関する特記事項

- ① 佐野藤三郎特別賞は佐野藤三郎氏の不屈の精神と高い志を継承するため、「第二、第三の佐野藤三郎」の出現を期待して設けたものです。  
現時点での業績価値の評価に加え、その事業を継続する事による意義と可能性の大きさを重要な選考の視点としています。
- ② 原則として、顕著な国際賞(ノーベル賞、世界食糧賞、日本賞、京都賞など)を受賞していない個人、団体を対象とします。

### 3. 21世紀希望賞

対象は本賞と同じ。

#### #21世紀希望賞に関する特記事項

- ① 若い人材(45歳以下)による研究及び実践を対象とします。
- ② この賞では研究及び実践の成果の十分な蓄積を条件付けておらず、研究計画の充実度と今後の可能性といった将来性を重視します。
- ③ 企業や組織、団体との合意による共同研究や共同開発、実用化、活動の実践等による将来的な世界貢献への可能性と実現性を奨励する賞です。

詳しくは、推薦要項をご覧ください。  
ホームページからダウンロードできます。

HPアドレス : <http://www.niigata-award.jp/contents/award/application.html>

## 食料主権(食料への権利)に関するアジア地域会議に参加して



この度、当財団がこの春から参加しているゼロ・ハンガーネットワーク・ジャパン(事務局FAO 国連食料農業機関日本事務所)からのお誘いを受け、2011年8月22日～23日にインドネシアのジャカルタで開かれた「食料主権(食料の権利)に関するアジア地域会議」に参加する機会に恵まれた。

この会議はFAOのサポートによりアジアで実現したものであるが、AAHM(Alliance Against Hunger and Malnutrition)とANGOC(Asian NGO Coalition)の2つの団体が中心となって開催されたものである。AAHMはローマに拠点を持つ飢餓と栄養不良問題に関するグローバルなネットワークであり、FAO、国連世界食料計画(WFP)、国際農業開発基金(IFAD)、Biodiversity Internationalにより2003年に設立され、2010年に名称が現在のものとなった。西アフリカやラテンアメリカ地域を中心に飢餓・栄養不良問題を抱える当事国の中にアドボカシー(政策提言)のナショナルアライアンスを作ること成功してきたが、今後は他地域への拡大、グローバルとナショナルをつなぐ「リージョナル(地域)」なアライアンス作りを目指している団体である。一方、ANGOCは、1978年の農業改革・農村発展に関する世界会議を受け、翌1979年に設立された

### 食の新潟国際賞財団アドバイザー 高橋 敏哉

東南アジア、南アジア、中国の農村・農業開発に関する当事国のNGOの連合体である(現在フィリピンのマニラ首都圏のケソン・シティに本部を置く)。東南アジア・南アジアの土地所有権の改革、持続可能な農業、参加型ガバナンスのアプローチに軸足を置き、アドボカシーのみならず、研究・調査を長年行ってきた。何れの団体も日本との関係はまだ薄く、今回、AAHMのアジアでの地域ネットワーク作りへの動きの中で、FAOの日本事務所へ参加のお誘いがあり、同事務所の担当者と私の2名で参加したものである。

今回の会議のテーマは、90年代後半に登場した「食料主権」という新しい食料安全保障への考え方であった。これは、農業生産者、構造的な弱者の立場から持続可能な食料の生産・分配を考えるもので、1996年の世界食料サミット(WFS)で議題に上ったものである。会議は丸2日間、現地のホテルで行われ、朝の9時から、夜の8時頃まで続く非常にハードな日程であったが、FAOの食料安全保障への考え方の変化、CSOs(市民社会組織)・プライベートセクター(企業を含む民間団体)に広く開かれた飢餓・栄養不良に関するグローバルなガバナンスの動き、また2006-8年の食料危機の際のアジアの農村でのインパクトなど、日本国内では得にくい情報や議論に満ちており、充実した2日間を過ごすことができた。

第1日目の午前から午後にかけては、FAOを始めとする主催諸団体から、飢餓・栄養不良問題に関する問題提起がグローバルレベルと東南・南アジアでの諸状況に言及しながらなされ、またテーマ別セッションとして、食料主権と密接に関わる「食料への権利」、東南・南アジアでの土地への権利の問題、気候

変動の農業の影響に関するプレゼンが行われた。午後の後半からは、このような飢餓・栄養不良問題の農村での状況と、今後の変革に向けての可能性につき、参加した東南アジア・南アジア・東アジア諸国のカントリーレポートが行われた。2日目は、飢餓・栄養不良問題を中心とする食料安全保障を実現する「メカニズム」についてのプレゼンと討論が行われた。最後には「アジアで飢餓と栄養不良問題でのアドボカシーのネットワークを作るべきか」についての議論が行われた。やや意見の対立も見られたが、当面課題は残るものの、暫定的に進めていこうとする方針で全体がまとまり、友好的な雰囲気の中で2日間の会議は無事終了した。

大変刺激に満ち溢れた会議であったが、以下の点が大きく印象に残った。第1に、アジアで農業が消滅の危機にあるのではないかという危惧が一部で共有されていたことであった。アジアの農業生産は年々増えてきてはいるものの、基本的に「小農業者」(概ね2ヘクタール以下)による生産が大半であり、農村の貧困問題の未解決、都市との経済格差、農業投資の低下、気候変動、土壌の劣化、水の枯渇・質の劣化、都市化・産業化による優良な農地の減少、農民の高齢化といった諸原因が、農村を疲弊させる構造的要因となっている指摘がなされた。そして、このような疲弊した農村では、2006-8年の食料危機での穀物価格の急騰時に対し、購買する手段を失い、至って脆弱な様態を示し、アジアで農業生産を支える「小農業者」を抱える農村が消滅の危機に瀕しているとのことであった。第2に、「食料主権」への1つの答えとして、FAOが進めている食料安全保障への「食料への権利(The Right to Food)アプローチ」を知る機会を得たことであった。これは、世界人権宣言(1948年)の第25条、国際人権規約(A規約)(1966年)の第11条にある食料への権利に関する規定を根拠に、



1996年のWFS以降にFAOも関わる制度として進展したアプローチである。飢餓・栄養不良問題を人権問題として扱い、当事国の制度改変を人権の観点から促すものである。FAOもボランタリーガイドライン(VGs)の作成、モニタリングなどに大きく関わり、食料安全保障の具体的な実現への1つの手法として注目に値するものであった。第3に、農村開発を始め、飢餓・栄養不良に関するアジアのNGOの議論のレベルの高さが印象に残った。実践に加え、英語を共通語とするグローバルなレベルでの議論に長年加わってきた彼らの蓄積は、国際社会での「知的議論」力として大きく前進しているものであり、日本国内でのこの分野の現況を考えると、今後の日本での課題を考えさせられるものとなった。そして最後に、アジア人同士の「共感」もさることながら、ODAを通じアジアへ支援を続けてきた日本への飢餓・栄養不良問題に関するリーダーシップへの期待は未だ大きいものがあつた。経済的にも自信を失いつつある現代の日本社会であるが、今後この問題へ関わる中で、新たな飛躍へのヒントを見出せる可能性もあるのではないだろうか。

2日間の会議全体を通じて、「食料主権」という新しいテーマ、アジアにおける農業問題の深刻さ、飢餓・栄養不良に関するグローバルなガバナンスの進展、日本国外で起きている食料安全保障の現状と仕組み作りなどを知る貴重な機会を得ることができ、今後の財団にとっても大変刺激的な材料の収穫となった。

## 食の新潟応援団(賛助会) 会員名簿 (平成23年10月1日現在 順不同、敬称略)

特別会員		正会員		個人会員
亀田製菓(株)	(株)新宣	(株)第一印刷所	(株)鳥梅	
		新潟県信用組合	佐川急便(株)関東支社	山口 眞樹
(株)ブルボン	新潟市農業協同組合	(株)タカヨシ	(株)山由製作所	
		(株)本間組	新潟万代島総合企画(株)	藤島 安之
亀田郷土地改良区	三井物産(株)新潟支店	石本酒造(株)	(株)キタック	
		(株)ミカサ	鍋林(株)	酒井 定勝
新潟県農業協同組合中央会	(株)エイケイ	神山物産(株)	レンゴー(株)	
		(株)山忠	北越工業(株)	児玉 伸
学校法人新潟総合学園	三菱商事(株)新潟支店	シヨクザイ新潟(株)	丸榮製粉(株)	
		丸七商事(株)	(株)鈴木コーヒー	増村 文夫
第四銀行	ホテル日航新潟	大東産業(株)	TeNYテレビ新潟	
		藤屋段ボール(株)	(株)栗田工務店	鈴木 厚生
一正蒲鉾(株)	NST	新潟工科大学産学交流会	(株)細山商店	
		(株)タケショー	三和薬品(株)	有沢 栄一
佐藤食品工業(株)	(株)電通東日本新潟支社	日本たばこ産業(株)新潟支店	(株)藤井商店	
		(株)新潟博報堂	セッツカートン(株)新潟工場	高嶋 潔
(株)栗山米菓	(株)新潟クボタ	BSN新潟放送	ハセガワ化成工業(株)	
		新潟陸運(株)	日本精機(株)	和田 充彦
岩塚製菓(株)	亀田商工会議所	医療法人 愛仁会 亀田第一病院	東邦産業(株)	
		(株)新潟食品運輸	日精サービス(株)	河内 直史
三幸製菓(株)	にいがた22の会	山崎醸造(株)	麒麟山酒造(株)	
		月島食品工業(株)	新潟商工会議所	
(株)新潟日報社		松田産業(株)	(株)雪国まいたけ	
		(株)フジテレビジョン	(株)加島屋	
		日本製粉(株)関東支店	(株)日本フードリンク	
		日本甜菜製糖(株)		

### 食の新潟応援団(賛助会)募集中！

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援して下さる皆様を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページアドレス: <http://www.niigata-award.jp/jp/join/>